

英国の最近の政治情勢について

作成日 2016年7月1日

前ロンドン市長の不出馬表明は、混乱收拾へ向けた前進とみています。

キャメロン英首相の後継者を選ぶ保守党の党首選（9月上旬）に、欧州連合（EU）離脱派リーダー格のジョンソン前ロンドン市長が6月30日、不出馬を表明しました。これにより、支持率調査で圧倒的に優勢なメイ内相（図表参照）が、党首に選出される公算が高まりました。国民投票で離脱派と残留派に国民を分断させ、政治混乱の元凶となった与党・保守党の分裂は收拾に向けて大きく前進しました。

ポイント① 分裂した保守党は団結へ

■ジョンソン前ロンドン市長は、不出馬を表明した会見で、「(今回の党首選は)保守党内そして国民が団結するチャンスである」と述べました(注1)。現地では「ジョンソン前ロンドン市長の不出馬表明は、分裂した保守党内そして国民に団結をもたらす能力のある、安心感を与える候補として、党首選に向けたメイ内相の地位を強化した」(英紙FT)と報じられています。

(注1)ジョンソン前ロンドン市長は、「英国が欧州の一部であることをいくら強調しても強調し過ぎることはない、将来にわたっても常に一部だ」(英紙デイリーテレグラフ、26日付)と述べ、これまでの離脱派リーダーとしての主張を大幅に弱めました。英紙デイリーテレグラフ(30日付)は、離脱派議員が今年2月、両派どちらにつきか迷うジョンソン前ロンドン市長に対し、離脱派リーダーとなるよう迫った場面を描写しています。「キャメロン首相は当初、残留派としての活躍をジョンソン前ロンドン市長に期待していた」とも報じられています。

ポイント② 新たな保守党リーダー候補の政治姿勢

■メイ内相は、残留派でありながら国民投票の結果に従い「離脱は離脱だ」として、EUとの交渉に強い態度で臨む姿勢を示しています。まるで、ジョンソン前ロンドン市長の立場を代弁しているかのような印象を与えるメイ内相の政治姿勢です。

担当：チーフストラテジスト 杉山 修司
 東京大学経済学部卒、ロンドン大学LSE修士
 日本銀行為替課ほか、格付会社S&P、ドイチェ・アセット・マネジメントを経て、2016年から現職（業界経験年数25年）

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

ポイント③ 政治混乱を回避し、政策目標達成へ

■「2度目の国民投票や総選挙はしない」と明言したメイ内相の狙いは、(1)国内の政治的混乱長期化の回避が目的と考えられます。同時に、(2)（「離脱派に投票した人達の一部は後悔している」とも報じられており、2度目の国民投票等をすれば離脱結果が撤回される恐れも出てきていることから）離脱派が勝利した国民投票の結果を生かして、対EU交渉で最大限の譲歩を引き出す目的があると考えられます。これは、ジョンソン前ロンドン市長の手法(注2)そのものと言えます。

(注2)「ジョンソン前ロンドン市長は、『英国の利益にかなう移民受け入れ条件を盛り込んだEU改革案』をEUに受け入れさせるための交渉カードとして国民投票を利用しようとしただけで、EU離脱を本気で考えている訳ではなさそう」(英紙FT、28日付)との観測があります。

保守党党首選有力候補者の支持率 図表

